

# INTERVIEW

公立久米島病院 管理者兼病院長  
並木宏文先生



## 生活者である患者さん一人ひとりに 添った医療を目指して

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

### なんでも診る医療と出会い、地域医療のススメに

**山田隆司(聞き手)** 今日には公立久米島病院を訪問しました。病院長の並木宏文先生にお話を伺いたいと思います。先生は、地域医療振興協会の「地域医療のススメ」プログラムの修了生として、公立病院の管理者という重責を担っていただいているので、ぜひ現状や今後の展望を伺いたいと思います。まずは先生のここに至るまでの経歴をお話いただけますか。

**並木宏文** 生まれは長野県の佐久市です。農村医療のメッカですね。

**山田** 佐久病院の若月俊一先生が農村医療で有名ですね。

**並木** はい。私の祖母も叔母も若月先生に診ていた

だいていました。また若月先生はよく市民講座でお話をされていたので、かなり近くに医療があったと思います。

**山田** 私が学生時代、若月先生が自治医大に来られて講義を聞く機会もありましたし、当時、岩波新書で『村で病気とたたかう』という本があり、自治医大の学生にとってはバイブルのようなものでした。

**並木** そうですね。その当時は、根を張って、地面をつくってという、ああいった考え方は理解されづらかったのではないかと思います。今やそれがあるべき姿になってきていますが、

私自身は医療にかかった経験はほとんどな

く、ただ私が高校3年生のときに、祖母が腎臓の病気で、私の通う高校の通り道にある病院に入院していました。2ヵ月くらいで亡くなってしまったのですが、通学の行き帰りに祖母の顔を見に病院に寄ったりする中で、医師や看護師さんだけではなくいろいろな医療職の人と顔を合わせ、医療の中身は素人で分かりませんでしたが、家族でもない人たちがこれだけいてくれるというのが感じられて、医療にはいろいろな職があるのだと気づき、そしてそれが医療に触れる最初だったように思います。それから少し時間はかかってしまったのですが、医師以外の医療職の存在も知った上で医師になることが自分の医療であり、自分の目指す道となりました。

大学は九州の宮崎大学に入りました。入るときに縁があって同じ長野県出身の当時の解剖学の教授がかなり面倒を見てくださいました。それで卒業後は、その先生に自分が医療をしている姿を見せたいと思い、2年間、宮崎大学に残って初期研修をしました。宮崎県にもいくつかありますので、2年目の夏に宮崎県の五ヶ瀬町病院で実習をした際に、その先生が6年目の循環器の先生だったのですが、胃カメラもするし、大腸カメラもするし、肺の気管支鏡もするし、ある時は房室ブロックで詰まりそうなのを、一時的なペースメーカーを入れて隣の熊本県のドックまで搬送したりして……その先生が普通にそういうことをしていて、なおかつ村の住民と一緒に生活している姿を見て、医者になった自分の気持ちにじっくりきた医療に出会った気がしました。その先生が実は自治医大の卒業生で、自治医大というものを認識したのはその時が初めてでした。その後、そういう形でやっている先生たちが大勢いると知り、3年目に地域医療振興協会に応募させていただ

きました。

**山田** ありがとうございます。

**並木** 当時の東京北社会保険病院の「地域医療のススメ」に入ったのですが、指導医の片山繁先生に「山がいいか？海がいいか？」と聞かれ、長野県で山育ちでしたので「海がいいです」と言ったのですが、茨城県に行くことになりました(笑)。

**山田** ススメのプログラムの地域研修で村立東海病院に行かれたのですね。

**並木** そうです。

**山田** その頃はまだプログラム全体や地域研修が洗練されていなくて、トライ&エラーのような時期だったのではないかと思います。ススメの3年間のプログラムですか。

**並木** 合計で4年間です。

**山田** その中で離島にも行かれたのですか。

**並木** はい。沖縄県立中部病院で半年研修を行って、崎原永作先生がその後「離島に行っていていい」とおっしゃっていたので、私はそのまま離島に行けるのかと思っていたのですが、実は1週間だけだったのですね。与那国へ行ったのですが、とても厳しい環境なので、もっと研修を受けてから赴任するものだと思います。

**山田** それでススメ修了後に与那国を希望されたわけですね。ところが別の先生の赴任が決まってしまって、北海道へ行くことになった。

**並木** そうですね。いろいろな先生のお話を聞くと、北海道の地は環境の厳しさがまた違う、冬場は病気に限らず、住む環境次第で亡くなってしまうことがある、と。そういったところで医療体制や住民の心持ち、また医療者が実際の生活をどうしているかを体験したかったというのがありました。

**山田** そう言っていただけるとありがたいですが、南の島を希望していたのに、北の果てに行くこ